

市長所信表明

令和4年第2回小美玉市議会定例会を開催するにあたり、諸般の報告に先立ちまして、今後4年間の市政運営に関する所信の一端を申し上げます。

議員の皆様には、平素より市政運営にご支援を頂き、心から感謝を申し上げます。

また、この度の市議会議員補欠選挙において当選され、新たに市議会議員としての一步を踏み出した3人の皆様に心からお祝いを申し上げると共に、今後の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

合併から現在までの小美玉市の歴史を振り返れば、島田穰一前市長の下、「均衡ある発展」のために、常に市民との対話を重視し、地域振興、市民福祉の向上に積極的に取り組み、市全体が発展できる礎を築かれました。前市長から引き継ぎましたバトンの重さを改めて感じ、これからの市政運営を担っていく重責に、凜とした背筋が伸びる思いがあると共に、市長に就任できたことは、私にとって大変光栄であります。

しかしながら、これから歩む私たちの先には、新型コロナウイルス感染症との闘いや、コロナ禍で疲弊した地域経済対策をはじめ、少子高齢化に伴う様々な問題や想定外の自然災害への対応など、困難な問題が待ち受けております。

これらの多くの困難な問題も議員の皆様をはじめ、市民と執行部が一丸となって知恵を出し合うことで、乗り越えていけるのではないかと信じております。今こそ皆で結束して、様々な問題を解決し、住みやすく、魅力的な小美玉市の新時代を築いていかなければなりません。

私は、今後進める4年間の市政運営について「教育」「福祉」「農業」「商工観光」「地域防災」の5つの施策を重点的に振興するため、全力で市政運営のかじ取りを努めて参る所存でありますので、議員および市民の皆様のご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

さて、我が国は、人口減少、少子高齢化の進行が大きな社会問題となっております。本年4月1日時点で、全国の半数を超える自治体が過疎地域として指定され、茨城県においても、11の自治体が過疎地域として指定を受けております。

本市においては、平成12年から令和2年までの20年間で、国勢調査人口が約4,500人、減少しております。

しかしながら、本市は茨城県のほぼ中央に位置し、霞ヶ浦にも面し、空の玄関口となる茨城空港を有しております。

また、養鶏や酪農が盛んなほか、全国に誇れる多様な農産物も生産していることから、さらなる発展の可能性があるものと確信しております。その上で、本市の可能性を最大限に発揮できるよう、まちづくりを進めることにより、本市を飛躍的に大きく発展させていきたいと考えております。

さて、私が今後進める4年間の市政運営につきましては、「5つの重点施策」、そして「4つの中長期ビジョン」により進めてまいります。

まず、「5つの重点施策」について申し上げます。

1つ目に、「教育の振興」でございます。

急速なICTの進展やグローバル化など、教育環境は変革期を迎えております。子どもたちが変化の激しい社会に対応できる力や、自ら未来を切り開く力を身に付け、豊かに生きていける教育が必要です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や新たな感染症が発生した場合でも、子どもたちの学びを妨げることがない教育環境の整備を進め、「対面教育」と「デジタル教育」を効果的に組み合わせたハイブリット教育を進めてまいります。

また、気候変動などの世界規模の社会問題に対し、持続可能な社会を目指すSDGsの取組みを進めるため、世界規模での課題を解決する力が求められていることから、外国語教育を推進し、グローバルな社会で活躍できる人材を育成してまいります。

未来を担っていく子どもたちの教育には、学校と保護者だけではなく、地域と一体となった教育環境が必要です。

本市の豊かな資源を活用し、地域の伝統や文化を継承すると共に、地域の方々と協力し合いながら、「豊かな心、郷土を愛する心」を一緒になって育てていくため、子どもたちを共に支え合う「地域と共にある学校」づくりを進めてまいります。

将来にわたり本市に想いを寄せて、「夢と希望を抱き 未来を切り拓いていく人づくり」を行ってまいります。

2つ目に、「農業の振興」でございます。

本市では、全国に誇れる多様な農産物を生産しており、国が公表する 令和2年市町村別農業産出額 では、生乳や鶏卵などが全国で上位を占めるなど、経験に基づく知識と技術、誇りと熱意をもった方が多くいらっしゃいます。

一方、全国的には、農業担い手の減少や高齢化の進行により、販売農家や基幹的農業従事者の数は大幅に減少しており、65歳以上の高齢者や外国人の技能実習生が農業を支えていると言っても過言ではない状況であります。

このため、本市の農業を継続・発展していくため、精力的な就農者や、もうかる農業を目指す若い就農者を支援し、収益性の高い事業を展開できる「経営感覚に優れた農業経営者」を育成する取組みを行ってまいります。

また、農畜水産物の付加価値を高めるため、消費者の信頼を勝ち得た「小美玉ブランド化」や、生産から加工、流通販売を一体化する「6次産業化」を推進してまいります。

技術革新が進む中、ICTなどの新技術の導入による生産性向上と農作業の負担軽減を図るため、産官学の連携した取組みを検討するなど、新たな視点での支援策を進めて行き、「持続可能な農業」を目指してまいります。

3つ目に、「福祉の振興」でございます。

高齢者や障がいのある人をはじめ、誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加していただくことは、魅力あるまちづくりには欠かせません。

住み慣れた地域で生涯安心して健康に暮らしていけるよう、高齢者福祉や障がい者福祉を充実し、健康寿命を延ばす取組みを推進してまいります。

また、未婚化や晩婚化、コロナ禍などの影響により、少子化が急速に進行していることから、本市を担っていく若い世代の出産・子育てに対する将来への不安や負担を軽減していく必要があると考えております。

妊娠中も健やかに過ごし、安心して出産を迎え、楽しく子育てができるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援体制を強化してまいります。

障がいの有無や年齢、性別などにかかわらず、すべての人が生き生きとした生活が送れ、お互いに尊重し支え合う地域共生社会を目指し、「ぬくもり あふれるまちづくり」を進めてまいります。

4つ目に「地域防災の振興」でございます。

多様化、複雑化する災害に対応できる消防職員および消防団員の確保が課題となっております。

消防業務の高度化、専門化が進む中で、市民の生命・身体・財産を守るため、必要な行政サービスを提供していくことが求められております。

救急救命士などの有資格者の採用や、消防団員の処遇改善や消防団員OBで構成される支援団員制度などの導入を検討してまいります。

また、市民による防災活動は、一人ひとりが「自分たちの地域は自分たちで守る」といった防災意識を高め、平時から訓練や減災の準備を進めておくことが大切であります。

そのために、市民による防災訓練などにより、地域のリスクに応じた「市民による防災活動」を支援してまいります。

地域における犯罪を抑制し、市民の安全・安心を確保するため、防犯カメラの増設など、地域における防犯活動に対して支援を行ってまいります。

地域の皆様と一体となった取組みを推進し「安心・安全に暮らせるまちづくり」を進めてまいります。

5つ目に、「商工観光の振興」でございます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、国内・県内の観光需要は落ち込んでおります。茨城空港の利用者は、令和元年度に過去最高の77万6千人の利用者でしたが、令和3年度はその半分以下に留まっております。

茨城空港周辺を核とした地域の活性化は、本市の賑わいづくりには欠かせません。

茨城空港及び「空のえき そ・ら・ら」を拠点に、市内各所の名所や飲食店などを周遊できる環境整備や、県や他自治体と連携したナショナルサイクルートを活用した事業の推進、公共交通や意欲ある商店街と連携をしながら、茨城空港及び「空のえき そ・ら・ら」と一体化したまちづくりを行ってまいります。

新たな関係人口の掘り起こしや交流人口の拡大を図り、地域の観光資源を最大限に活かした「にぎわいを創出するまちづくり」を進めてまいります。

以上の5つの重点施策を遂行するにあたり、2つの行財政改革をすぐに着手する必要があると考えております。

1つ目は、「DX推進」でございます。

デジタル技術やデータの活用による行政手続きの効率化・簡素化を進め、市民の申請手続きなどの負担軽減や行政手続きコストの削減を図っていくため、本年9月を目途に策定する「小美玉市DX推進計画の実施計画」に基づいた改革を進めてまいります。

DXを推進するにあたり、デジタル活用に不慣れな方にも配慮しつつ、市民目線での利便性向上を第一に考え実施してまいります。

2つ目に、「市役所職員の人材育成・意識改革」でございます。

「行政のDX化」や「市民ニーズの多様化・複雑化」に柔軟に対応するためには、職員一人ひとりの能力の向上と意識改革が不可欠でございます。

行政のDX化に適応し、市民のニーズに柔軟に対応できるよう、職員研修を充実させ、市民と職員との交流を通し、職員の個性や能力を最大限に発揮できる人材づくりを行ってまいります。

次に「4つの中長期ビジョン」について、申し上げます。

1つ目に「国道6号の4車線化」でございます。

国道6号の小美玉市区間の1日の交通量は約17,800台となっており、慢性的な交通渋滞が発生しております。国道6号は、大規模災害が発生した際に、救援活動及び復旧活動に資する緊急輸送道路として、常磐道の代替道路となる大変重要な役割を担っておりますが、いまだ国道6号「小美玉道路(仮称)」の都市計画が決定されておられません。

小美玉道路の早期実現に向けて、国においてはオープンハウスでの市民への情報提供を継続的に行っておりますが、本市においては、地域の皆様の意見をしっかりと踏まえ、県をはじめ近隣自治体と連携し、事業の推進について国に強く働きかけてまいります。

2つ目に「高浜駅橋上化」でございます。

令和2年2月にJR羽鳥駅の自由通路及び橋上駅舎が供用開始され、主に美野里地区の市民の方の利便性が向上しました。

一方で、小川地区・玉里地区の方が主に利用するJR高浜駅について、橋上化を望む市民の声を多くいただいております。自由通路と駅舎機能が2階部分に集約化されれば、駅の利便性は向上し、通勤・通学時の負担軽減が図られることとなります。

高浜駅橋上化の実現に向けて、現状や課題を整理し、石岡市の意向や動向を確認した上で、協議を重ね、高浜駅を利用する小川地区・玉里地区にお住まいの方の通勤や通学の負担軽減に向けた取組みを検討してまいります。

3つ目に「霞ヶ浦二橋建設の推進」でございます。

土浦市、小美玉市、河内町など11市町村が、平成8年に霞ヶ浦二橋建設促進期成同盟を設立して、以来、国・県をはじめ関係機関に建設促進を訴え続けてまいりました。

茨城県総合計画には構想路線として示されたまま、26年が経過しております。

霞ヶ浦二橋は、今後、30年以内に約7割の確率で起こると言われている首都直下型地震が生じた場合の物資輸送や避難ルートとして、都心と県西・県南地域などと結ぶライフラインとなる国民の命を守るルートになります。

霞ヶ浦二橋の実現には、莫大な費用や長い整備期間を要するなどの課題はございますが、関係市町村・団体との連携を強化し知恵を出し合いながら、霞ヶ浦二橋建設促進期成同盟の活動を通じて、国・県へ粘り強く早期実現に向けて要望をしてまいります。

4つ目に「つくばエクスプレスの茨城空港延伸」でございます。

市の地域振興の核となる茨城空港周辺の活性化には、つくばエクスプレスの茨城空港への延伸が必須でございます。

先月23日に、水戸市・石岡市・かすみがうら市・小美玉市・茨城町の4市1町と議会、商工会並びに各種団体で構成された「TX水戸・茨城空港延伸促進協議会」を設立し、茨城県に対しTX延伸に向けた要望活動や署名活動を行うことといたしました。

今年度中に延伸方面が決定することから、他の自治体と協力し合い、延伸の実現に向けた活動を行ってまいります。

また、茨城空港までの延伸を確実にするために、新たに企画財政部企画調整課内に「TX茨城空港戦略室」を設置し、市独自の取組みを強化してまいります。

茨城空港方面の優位性をアピールしつつ、市民の延伸を望む声を汲み取りながら、県に対し市民と一体となった取組みを行ってまいります。

4つの中長期ビジョンは、本市だけでの実現は難しく、また、実現には時間と費用を要することが見込まれております。事業を進めるにあたり、市民へ進捗状況を丁寧に説明し、市民の声を丁寧に聴き取りながら、国・県・関係市町村と連携を深め、早期実現に向けて取り組んで参る所存でございます。

結びになりますが、備中松山藩の幕末期の陽明学者である山田^{ほうこく}方谷は、「政治に最も大切なことは、誠意を尽くして人を思いやる心をもって取り組む^{しせいそくだつ}「至誠惻怛」であり、初めから華やかな業績を上げようなどと考えてこれを行えば、それはただ自分一人のためにしたことにすぎない。」と説いています。

市民の皆様から頂いたご意見をしっかりと受け止め、時代の変化を敏感に感じ取りながら、^{しせいそくだつ}「至誠惻怛」の精神を忘れずに、これからの本市のふさわしいグランドデザインを描き、本市の発展に尽くして参る所存であります。

議員の皆様ならびに市民の皆様に、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、所信表明といたします。